

## iPurifier DC2 の導入(4)

### —DSD 録音—

#### 1. はじめに

前報(1)および前報(2)の結果を受けて、DMR-UBZ1 による BPODCH の再生の DSD 録音を実施しました。

#### 2. iPurifier DC2 の試聴方法

BPODCH の録音は TASCAM DA-3000 により 5.6MHzDSF のフォーマットで録音します。録音時の DA-3000 には GPS-777 から 44.1MHz のクロックを入力します。再生は録音した DSD 音源を fidata にコピーし、USB 経由で Sonica DAC に送って再生します。

前回の BPODCH の録音は、[DMR-UBZ1 の展開\(11\)](#)で報告した条件下で行っています。それ以降の条件の変更は前報(1)および前報(2)で報告したとおりで、子機のルーターのスイッチング電源の iPurifierDC を iPurifierDC2 に変更したことと、余ってきた iPurifierDC を CTU のスイッチング電源に適用したことです。

#### 3. iPurifier DC2 の試聴結果

上記のような変更が音質にどのように影響しているかを DMR-UBZ1 の展開(11)で報告した条件下で行った DSD 録音の音源と比較してみました。

DMR-UBZ1 の展開(11)で報告した条件下で行った DSD 録音に比べ、今回の子機のルーターのスイッチング電源の iPurifierDC を iPurifierDC2 に変更し、iPurifierDC を CTU のスイッチング電源に適用した条件下で行った DSD 録音は、明らかに一音一音が明晰になって楽器の質感が向上し、オーケストラの各パートの分離が向上するとともにホールの間接音も豊かになっています。即ち、前報(1)および前報(2)の結果を DSD 録音でも確認することができました。

#### 4. まとめ

子機のルーターのスイッチング電源の iPurifierDC を iPurifierDC2 に変更したことと、iPurifierDC を CTU のスイッチング電源に適用したことの効果を BPODCH の DSD 録音で確認することができました。

以上